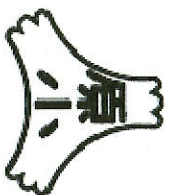


# 原小だより



<http://www.edu.city.yokohama.jp/sches/hara/>

横浜市立原小学校

令和5年4月28日

5月号

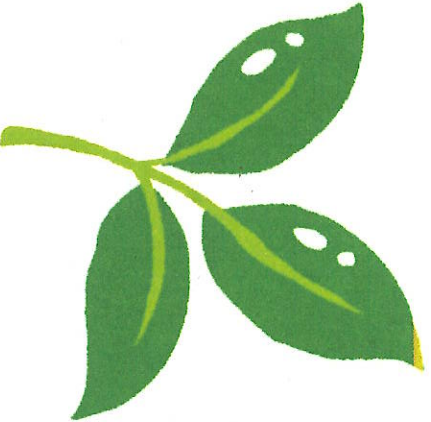
## ワクワクが学びのエネルギー

校長 蒲谷 猛

『だれかが口笛ふいた』  
作詞 阪田 寛夫  
作曲 フランソワ民謡  
〔サンブアル・エ・レ・ミューズ連隊行進曲〕  
だれかが口笛ふいた  
櫛の木のかげでさ  
だれかが足音たてた  
さわやかな朝だ

栗の花白い 山道を行けば  
青空の下 世界はすてきだ  
※みんなで聞いてごらん  
そよ吹く風の音を  
みんなで見てください  
光る若葉の緑

だれかが口笛ふいた  
花ひらく野原で  
だれかの歌声ひびく  
さわやかな朝だ  
君と肩組んで 野の道を行けば  
青空の下 世界はすてきだ  
※ 繰り返し



「あんまり行きたくないけど、研修に行ってくださいます。」と職員室を出てから、「いつも職員のみなさんに『積極的な研修を』と言っているのに不適切だったな」と反省はしましたが、気が乗らないものは気が乗らないのだからしょうがない。

だって、毎年行っている研修ですから、内容は大体思い浮かぶし、活動内容も想像できてしまうし、新鮮さが無いというか面白みがありません。「言われなくても知っている」なんて横柄なことを言うつもりは微塵もありませんし、大切な研修だともわかっていきますし、受講中は真剣に取り組みますが、やはり「ワクワク」はしないんです。

そもそも「悉皆（しつぱい）」研修って何ですかね。「悉皆」の意味は、「残らず、すべて」ですから、全員受講必須ということですが、研修すべき内容が悉皆であることと、選択肢のない研修受講が悉皆であることは大きな違いがあります。

子どもの学びに関しては、絶対にこうあってほしくないですね。「これ絶対に大事だし、将来役に立つから、とりあえず覚えときなさいよ。」とか、「全員ができるまで何回でも繰り返しやるよ。」というような提示のされ方では、それに取り組む子どもたちにしてみれば、意欲がわかないというか、時には苦痛でしかないでしょう。「ワクワク」しませんよね。

新鮮味という点から見ても、例えば、「はい、まずは、教科書の本文を全部読みます。読み終わったら、一人ずつ感想を聞きましょう。」って、国語の時間はいつもこれじゃんとか、去年もやったとか、前回も同じとか、子どもにそのような想いをもたせてしまう授業では、子どもの追随意欲や学ぶ楽しさを高めることはできません。これまた、「ワクワク」しません。

本校では、今年度も、「自らの『問い』をもち、意欲的に追究する子」を一人でも多く育てることをテーマにして、全職員で授業改善に努めます。また、原中学校ブロック3校合同で、「主体的な学び」や「主体的に学ぶ態度」について職員の学びを深めていきます。

どの子どもも、「よりよい自分になりたい」「知りたい』『やりたい』『できるようになりたい』という想いをもっています。「自分はこうしたい」をすすんで発信する子どもと、「させる」「強いる」指導を再考して、子どもを「こうしたい」を引き出し、つなげようとする職員とのコラボが、原小学校の日々にあふれるように努めてまいります。ぜひ、ご家庭も、同じ方向からお子さんの背中を押してください。